

～具体的な授業を通じ、教職員の力量アップを～

6月24日(月)、4年生の教室で研究授業が行われました。これは、全職員で一つの授業をもとに教師の問いかけや子どもたちの発言の状況・板書などの在り方を掘り下げ、課題を明らかにしてそれぞれの授業に活かそうとするものです。

今年度の本校の研究は、「他者との関わりを通じた課題解決の場の充実」をテーマに進めています。この日は、国語科の物語文「一つの花」を扱い、子どもたち同士の話し合いの場面を中心に授業の様子を全職員で見ました。

放課後の協議では、

- それぞれの子どもの考えが出され、活発に話し合われる問いかけのあり方
- つけたい力にせまるために、教師が一方的に教え込まずに子どもが気づき、よりよく考えを交流し合うための手だてのあり方

などを軸に研修を深めました。

子どもたちの意見交流の場では、教師が予想していたものとは全く異なる発言がなされることも少なくなく、逆に教師が期待する発言が子どもから出されたときに、他の児童が十分納得していないまま教師がすぐに結論付けてしまうこともあります。

子ども同士が十分話し合い、その時間に身につかなければならない力を踏まえつつみんなが納得し解決できるよう、教師はよりよい投げかけを瞬時に判断し、舵取りをしなければなりません。

教師がよりよい投げかけをするには、投げかける言葉の引き出しを多く持つことが必要であり、今回の協議では、その引き出しを増やすことができるものとなりました。教職員の授業力向上は、ひいては子どもの学力向上につながります。我々教職員、研究授業のみならず日頃の授業においても研鑽を欠かさず、自らの投げかけの言葉を増やしていけるよう努力してまいりたいと思います。



温かい会話と心の交流が・・・

～わくわくお話し会～

6月26日(水)の朝の時間、1～3年生が2・3年教室に集まり、わくわくお話し会が行われました。この会に、地域の野上美喜子さんが、読み聞かせで来てくださいまし

た。

野上さんは、「10びきのかえる(間所ひさこ作)」の絵本を感情豊かに読んでいきます。子どもたちもお話に引き込まれています。

音読が終わった後、「おたまじゃくし見たことある?」と、野上さんが子どもたちに投げかけ、お話にでてきたおたまじゃくしに着目させます。そして、おたまじゃくしの歌も披露してくれます。さらには、「手足が出ると、しっぽが短くなるんだよ」などたくさんの生き物の情報を織り交ぜて話してくださいました。

絵本にはトンボも出てきました。野上さんが「みんなトンボ見た?」と子どもたちに尋ねると、「シオカラトンボ」「イトトンボ」等、自分が見たトンボの種類を、子どもたちが元気よく答えています。「絵本に載っているトンボは何だろう?」と、挿絵を見せながら再度子どもたちに投げかけると、「オニヤンマ!!」と一斉に答えます。豊かですばらしい自然に囲まれた大田地域に住んでいる子どもたち。生き物のことをよく知っており、さすが大田っ子です。

子どもたちとのやりとりの中で、野上さんは、「〇〇ちゃん・・・」と、子どもたちの名前を覚え声をかけてくださいます。また、子どもたちの発言にもしっかり耳を傾けてくださるので、子どもたちも野上さんの問いかけに積極的に答えています。

このように、絵本を通じ、野上さんと子どもたちの対話も深まり、温かい交流の場となっています。



～待ちに待ったプール開き～

6月26日(水)、プール開きをしました。1・2年生は大田こども園のプールで、3～6年生は小学校のプールで泳ぎました。2度のプール開き延期でやっと泳げたこの日。みんな楽しく水しぶきをあげていました。

